



# Via Latina 22

2023年7月 323号

## 総本部よりのお知らせーマリア会

USA管区での初誓願式 .....	1
コートジボアールでの初誓願式 .....	2
未成年者と弱者の保護のためのバーチャル代表者会議 .....	3
総本部、デイトン大学の学生と教師を接待する .....	4
司祭としての善良さと慈愛：尊者Vicente López師の司牧的愛 .....	5
マリスタ教育修道士会の評議員会との会合 .....	7
私たちの願いに耳を傾けてくださる女性、マリアへの祈り .....	7

## USA管区での初誓願式



Juan de la Cruz士が初誓願を宣立する

2023年6月10日、メキシコ ケタロのグアダルーペ柱の聖母聖堂にてJuan de la Cruz士が初誓願を宣立しました。修練院長、Dennis Bautista士と副修練院長、Tim Eden師は、養成と識別の期間を終えたJuan士が修道誓願宣立に相応しい者であると紹介しました。彼の誓願はマリア会USA管区、管区長Oscar Vasquez師によって受け入れられました。共同司式者は管区霊生部長、Tim Kenney師とグアダルーペの柱の聖母共同体のチャプレン、Quentin Hakenewerth師でした。

家族のメンバー、友人たち、そしてマリアニスト共同体のメンバーがこの誓願式と会食に出席しました。この誓願式はまたライブでネット配信され、世界のマリアニスト家族メンバーと友人たちがこの式典にバーチャルで立ち合うことが出来ました。



**Juan de la Cruz 士 マリア会員と親戚と共に**

Juan 士は32才で、メキシコ南部、タバスコ州の州都ピヤエルモサにて生まれました。子供3人中2番目です。“私は2003年、13才の時にマリアニストと出会い、最初に会った会員はLawrence McBride 士とNereo Ramirez Hernandez 士でした。彼らは私にマリアニスト生活を紹介し、彼らについてもっと知りたいという私の興味が強まりました”とJuan 士は経緯を説明しました。Juan 士は2015年、志願者になることを希望し、プエブラとケレタロでメキシコのマリア会員と絆を持ち、2018年にオハイオ、デイトンの修練院に行くまで共同体で生活しました。

## コートジボアールでの初誓願式

2023年6月24日、土曜日、ノートルダム・ド・ピラールの修練院で、コートジボアールのマリア会と全マリアニスト家族は3名の修練者の初誓願を祝う大きな喜びを頂きました。3名の初誓願者は、Espoir Edzilambusi、Prince Nestor Lusindu、そしてJuvel Sambaで、彼ら全員コンゴ特別地区（フランス地区）に属しています。



**Espoir Edzilambusi 士、Prince Nestor Lusindu 士 と Juvel Samba 士  
コートジボアール従属地区の数名の会員と共に**

ミサは10時30分から始まり、マリア会Elie Oka師によって司式されました。幾つかの修道共同体とマリアニスト家族メンバー、および誓願者の友人たちが出席しました。お祝いの行事は修練院共同体の中で提供された食事の分かち合いで終了しました。

## 未成年者と弱者の保護のための バーチャル代表者会議

6月1日、未成年者と弱者の保護のための最初の代表者会議が行われました。総長評議員会とVia Latina共同体メンバー2名がこの会議に参加しました。それぞれの行政単位から選ばれ総数17名の代表者にとって、この会議は予定された4つの一連の会議の最初のトレーニングセッションでした。様々な国々の時間の現状に合わせるため、参加者は2つのグループに分けられ、それぞれ2時間半の時間を設けました。

この研修会は、英国の信徒でこのテーマについての講習の専門家であるTina Campbell女史によって上手にリードされました。彼女はほかの幾つかの修道会と一緒に仕事をしています。去年の1月以来、総長評議員会はCampbell女史にこの主題についての彼女自身の考えを分かち合ってくれるよう依頼していました。

この会議は代表者の役割とその任務の主要な側面に焦点を当てていました。代表者の中で、ある人たちはこの責務を初めて果たすのですが、一方、他の人たちは既に数年に渡って果たしてきています。会議の間、言語で分けられたグループはそれぞれお互い自分たちの質問と経験を分かち合うよう勧められました。



研修に参加した方の一部

私たちの望みは、この重要な分野における私たちの責務により良く向き合うことです。私たちは自分たち自身によって、あるいは、私たちに委ねられた事業の中で見過ごされてきたかもしれない事を改める必要があります。このことは、時として、明らかな虐待のケースを責任をもって取り扱うこと

を意味します。とはいえ、私たちは、様々な形の虐待を防ぐために、特別に私たち自身の間で、また私たちの全ての事業の中で、一人ひとりの人を尊重する文化を促進したいと思っています。この任務は私たち一人ひとりの自覚を求めています。このような訳で、代表者たちは、自分の行政単位の上長と相談して、全ての会員、および私たちに委ねられた事業の責任者たちと働くよう要請されます。一人ひとりを尊重するこの文化は、私たちが世界の至る所で育てたい福音の精神、あるいは家族の精神と完全に同調するものです。これが、今回の講習を通して私たちが応えたい呼びかけです。

次回のバーチャル会議は来る10月24日です。代表者の皆さんの寛大なご協力に感謝致します。

## 総本部、デイトン大学の学生と教師を接待する

2023年6月6日、総本部共同体はUSAオハイオ州のマリアニスト、デイトン大学の学生30名と付き添い教師3名のグループを接待しました。これらの学生は大学の体験の一環としてイタリアに来ており、“フィレンツェにおける工学技術 - ルネッサンスと21世紀の間の都市デザイン”という特別なプログラムに参加していました。フィレンツェの美しく古典的なイタリア的都市を起点に、彼らは数週間をかけてこの都市の公共空間を研究しました。また彼らはフィレンツェ郊外の遺跡を探索する機会がありました。それにはローマへの巡礼が含まれており、そこで数日間過ごしました。この小旅行の間に、彼らは総本部共同体を訪問し、そこで祈り、意見交換をし、総本部見学、そしてテラスでの定番のホームメイドピザで昼食を分かち合うことができました。国際神学校共同体も、昼食のためこのグループに合流しました。



David Bruner 士の案内で、UD 学生が神学校の聖堂を訪問する

総本部のメンバーもこのグループと他の時間を過ごしましたが、それには聖ペトロ大聖堂訪問、ローマでの一晩のグループ討議と食事、そしてフィレンツェに戻っての他の会議と一緒に食事が含まれていました。近づいてくる第36回総会への世界規模の準備の一環として、このグループとの公式、非公式の幾度かの話し合いは、準備資料“ステップ3”で提案された議題の探索へと連動するものでした。このように、一般信徒との直接の触れ合いによって、総本部共同体は準備過程に具体的に貢献することができました。



総本部（AGMAR）の資料室を見学する  
資料室係補佐Maximiliano Vidili氏による説明

私たちはこのように素晴らしい、熱心で、考え深い若者たちとの出会いの機会を得て大変嬉しく思いました。

## 司祭としての善良さと慈愛： 尊者Uralde LazcanoのVicente Lópezの司牧的愛



聖堂および尊者Vicente師の遺物 Rafael Zornoza司教による祝福  
左より：Antonio Gascón師、Rafael Iglesias師、司教、Iñaki Sarasua師

2023年1月19日、列福・列聖省長官は、教皇フランシスの指令によって、マリア会Uralde LazcanoのVicente López神父に対して尊者の称号を発布しました。彼はマリア会の修道司祭で、1990年カデイス（スペイン）にて96才で逝去しました。

6月7日、感謝の祭儀がカデイスのSaint Felipe Neri中学校の聖堂にて行われました。ミサ聖祭はカデイスとセウタ教区のRafael Zomoza司教によって執り行われ、スペイン管区長、Iñaki Sarasua師、共同体上長Rafael Iglesias師、そしてマリア会列聖請願者Antonio Gascón師と多くの教区司祭が共同司式に加わりました。多くの信者たちがこの祭儀に出席しましたが、それには卒業生、学校の先生、信徒マリアニスト共同体からの人々、マリア会員、そしてスペイン管区、管区長評議員会が含まれていました。このミサの祭儀の終わりに、彼らはVicente神父の遺骨が眠る聖堂まで行列しました。そこで、司教が尊者マリアニスト司祭の骨壺が収められている安置所を聖別しました。

この行事は、2008年にカデイス教区で始まった英雄的美徳と聖徳の誉れに関する列福・列聖の調査の終結をしりました。一旦Positioが準備されると、それは2022年3月列福・列聖省の神学顧問によって審議され、肯定的な投票が得られました。その結果、2023年1月17日の会議で枢機卿と司教たちは、神の僕UraldeのVicente Lópezが英雄的レベルで対神徳と枢要徳、および修道者と司祭の身分に付属する諸徳に生きたことを確認しました。

Vicente神父はマリア会修道者として謙虚な生活をおくりました；聴罪司祭および神のやさしい愛の分配者として知られた評判の良い人物でした。彼は、長時間、告解部屋で過ごし、町の多くの信者たちが彼の告解部屋を訪れました、なぜならVicente神父の身振りと言葉の中に、信者たちは自分たちが受け入れられており、自分たちの問題を聴いてもらえ、そして神の赦しがあることを感じていたからです。Vicente神父は良い性格で、ユーモアに富み、快活で、誰に対しても陽気で、控えめで、腰の低いマリア会司祭でした。彼は融和的で、いつも親切で、人々の間で差別をしませんでした。彼は共同体の兄弟たちの間の一致の絆でした。生涯に亘り、彼の忍耐、親切心、自己犠牲、そして控えめな態度の故に、人々が抱く彼の聖性は評判でした。彼はマリアニストの兄弟たち、生徒たち、教区司祭たち、この町の女子修道会修道女たち、そして信者たちからとても尊敬されていました。彼は告解に来る全ての人を静かに、優しく受け入れ、自分の言葉と生き様で罪びとや小さきもの、そして貧困者に対する主イエスの深い愛を示していました。



Vicente 師の中には聖マタイの次の言葉が見られました：“疲れたもの重荷を負うもの、誰でも私のもとに来なさい、私が休ませてあげよう”（マタイ11・28）。彼は神の赦しを伝える方法を知っていました。彼は自分の務めを良き牧者として実践し、決して裁判官のそれとしてはではありませんでした。“赦しなさい、全てを赦しなさい”、これが彼の聴罪司祭としてのモットーでした；そしてゆるしの秘跡の終わりに、告白者を次の言葉で送り出すのが常でした：“前に進みなさい、常に前に進むのです。”赦しの秘跡の執行者である彼は、

日ごと増々慈悲深くなりました。イエス・キリストのうちに私たちを和解させ、救い、そして私たちを養子としてきた神の尽きることのない愛を与えてきた人。Vicente神父は第2バチカン公会議の教えを体現していました。この公会議の教えは、神と信徒への司祭の愛を、新約聖書の司祭に固有な“司牧的愛”という表現をもって定義しています：「司祭は、良い牧者キリストの役割を果たすことにより、司牧者の愛の実践そのものの中に、司祭の生活と活動を一致調和させる司祭的完徳の絆を見いだすであろう。」（司祭の役務と生活に関する教令、14）

マリア会修道者としての共同体生活と宣教生活において、彼は使徒パウロの教えを実践しました：「あなた方は神に選ばれた者、聖なる、愛されている者として、憐れみの心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい。互いに耐え忍び、不満を抱くことがあっても、赦し合いなさい。主があなた方を赦してくださったように、あなた方も同じようにしなさい。さらに、これらすべての上に、愛を着けなさい。愛はすべてを完全に結ぶ帯です。」(コロサイ3・12-14)

---

## マリスタ教育修道士会の評議員会との会合

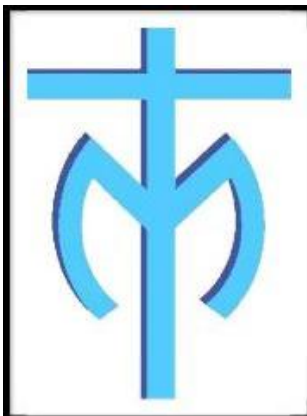
総長評議員会はマリスタ会の評議員会と兄弟的なひと時を分かち合いたいと望みました。私たちはこの修道会、その兄弟的マリア的精神、および教育への献身にとっても親近感を抱いています。こういう訳で、彼ら、すなわち総長、Ernesto Sánchez士と彼の現在の5名の評議員と一緒に一時を過ごせたことは大きな喜びでした。私たちは6月12日に会合をもちました。共通テーマのついでに先ず自由な意見交換の時間があり、次ぎに祈りの時間を持ちました。この後、私たちは総本部のテラスで一緒に夕食を楽しみました。この会合は私たち全員にとって大変有意義な時間でした。



両修道会の評議員会  
前列、左より3人目はマリスタ会の総長Ernesto士

---

## 私たちの願いに耳を傾けてくださる女性、マリアへの祈り



私たちの願いに耳を傾けてくださる女性、マリアよ、私たちの耳を開いてください：この世に満ちている多くの声の中で、私たちがあなたの御子イエスの声にどのように耳を傾けるかを知るようにしてください；私たちが生きている現実に、私たちが出会うすべての人々、特に貧しい人、困窮している人、困難の中にいる人に耳を傾けるようにしてください。

決断する女性、マリアよ、私たちの精神と心を照らしてください、そうすれば、私たちがあなたの御子イエスの言葉に躊躇なく従うでしょう；私たちが押し流されて他の人に自分たちの生き方を委ねないように、私たちに決断する勇気をお与えください。

行動する女性、マリアよ、あなたがなされたように、あなたの御子イエスの慈しみと愛を他の人々にもたらし、世界に福音の光とどけるために、私たちの手と足が《素早く》他の人々へと向かうようにしてください。 アーメン。

教皇フランシスコ



## 福者シャミナードへの祈りの意向

マリア会列聖請願者は、マドレーヌのメーゾン・シャミナード共同体(ボルドー フランス 地区)のRobert Witwicki師の病気治癒のため、福者ギョーム・ヨセフ・シャミナードにノベナの祈りを依頼しています。Robert師は脳腫瘍で深刻な病気となっています。フランス地区の地区長評議員会と総長評議員会はこの意向のため私たちに祈りを要請しました。



## 第36回総会（2024年7月）の準備

総会の準備中に皆さんの考察を分ち合うのにまだ92日あります。  
皆さん全員に感謝します！

## 最近の総本部通信

- 計報：12号
- 6月21日： マリア会 3 部門、159号 - 世界教育協定を通してマリア会教育を強化すること：正しい問いかけと正しい基準の重要性 マリア会教育局長Maximin Magnan 士からマリア会の全メンバー宛送付

## 総本部日程

- 6月27日～7月28日：霊生局長、Pablo Rambaud師がスペインでの「ホリゾン」プログラムに参加
- 7月9日～15日：総長、André-Joseph Fétis師がスペインでの「ホリゾン」プログラムに参加
- 7月19日～26日：財務局長、Michael McAward士がスペインでの「ホリゾン」プログラムに参加
- 8月11日～29日：霊生局長、Pablo Rambaud師がナイロビでの「ナザレ」プログラムに参加
- 8月19日～30日：総長、André-Joseph Fétis師がナイロビでの「ナザレ」プログラムに参加